

U.S. Indicators

マクロ経済指標レポート

米国 インフレ懸念再燃も一時的な動きの可能性 (05年7月生産者物価)

発表日：05年8月17日(水)

～自動車による一時的な押し上げ～

(No. UI-090)

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

	生産者物価 (Producer Price Indexes)											
	最終財		コア		エネルギー		中間財		原材料		<参考> 輸入物価	
04/07	+0.1	(+3.8)	▲0.1	(+1.4)	+2.5	+0.6	+0.5	+0.1	+10.9	+0.0	40.7	
04/08	+0.1	(+3.3)	+0.3	(+1.5)	+0.3	+1.0	+1.0	▲0.3	+2.5	+0.3	44.9	
04/09	+0.3	(+3.3)	+0.3	(+1.7)	▲0.2	+0.3	+0.8	▲4.5	▲1.3	+0.1	45.8	
04/10	+1.5	(+4.5)	+0.3	(+1.8)	+5.7	+1.0	+0.5	+4.3	+4.3	▲0.1	53.2	
04/11	+0.7	(+5.0)	+0.3	(+2.0)	+2.7	+0.8	+0.3	+7.6	+3.1	+0.9	48.5	
04/12	▲0.3	(+4.2)	+0.2	(+2.3)	▲2.4	+0.1	+0.4	▲3.1	▲1.4	+0.4	43.3	
05/01	+0.1	(+4.1)	+0.7	(+2.6)	▲1.0	+0.3	+0.7	▲2.0	▲2.5	+0.3	46.9	
05/02	+0.4	(+4.7)	▲0.1	(+2.6)	+1.8	+0.6	+0.5	▲1.0	▲2.9	+0.1	48.1	
05/03	+0.8	(+5.0)	+0.2	(+2.6)	+3.3	+1.0	+0.3	+4.7	▲0.3	+0.3	54.6	
05/04	+0.5	(+4.8)	+0.3	(+2.6)	+1.8	+0.8	+0.2	+2.1	+1.6	+0.4	53.0	
05/05	▲0.6	(+3.5)	+0.1	(+2.6)	▲3.5	▲0.7	▲0.3	▲2.0	▲3.6	▲0.2	50.0	
05/06	+0.0	(+3.6)	▲0.1	(+2.2)	+2.0	+0.1	▲0.2	▲3.3	▲4.3	▲0.2	56.4	
05/07	+1.0	(+4.6)	+0.4	(+2.8)	+4.4	+1.0	▲0.1	+6.7	+3.1	▲0.1	58.9	

出所 労働省 (Department of Labor)

注) 数字は季調済前月比。但し、()内は前年同月比 (未季調)。

コアが前月比+0.4%と市場予想を上回った

05年7月の生産者物価(最終財)は、エネルギー価格の上昇によって前月比+1.0%と市場予想の同+0.5%を上回った。一方、変動の大きい食料・エネルギーを除いたコア(最終財)は、資本財、消費財が自動車価格の上昇によって押し上げられたことによって同+0.4%と市場予想の同+0.1%を上回り、生産者段階での物価上昇圧力が強まった。もっとも、自動車を除くコアは前月比+0.2%と低い伸びにとどまっている。さらに、コア物価を押し上げた自動車部門では、6月以降値下げ幅が拡大していることから、7月の乗用車価格の上昇は一時的な動きと考えられる。また、消費者段階では自動車価格が下落しているように、値上げができるような状況ではなく、今後に関しても米自動車メーカーは新型モデルでの価格引き下げを表明しており、8月には再び乗用車の価格は下落に転じる可能性が高い。

基調を示す3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率でも、中間財(コア)が▲1.0%(6月同+1.2%)とマイナスに転じており遅れて影響を受ける最終財(コア)が同+1.6%(同+1.6%)と3ヵ月連続で低い伸びにとどまっている。生産者段階での物価上昇圧力が残存しているものの、強まってはいないと判断される。

資本財、消費財コアは共に前月から上昇

最終財のカテゴリ別の動向をみると、食品関連では野菜が下落したため、食品価格は前月比▲0.3%(6月同▲1.1%)とマイナスが続いた。一方、エネルギーは前月比+4.4%(6月同+2.0%)とプラス幅が拡大した。ヒーティングオイルが同+5.1%(同+13.5%)と鈍化したものの、天然ガスが同+3.7%(同▲3.2%)と上昇に転じ、ガソリンが同+10.9%(同+8.7%)と加速した。

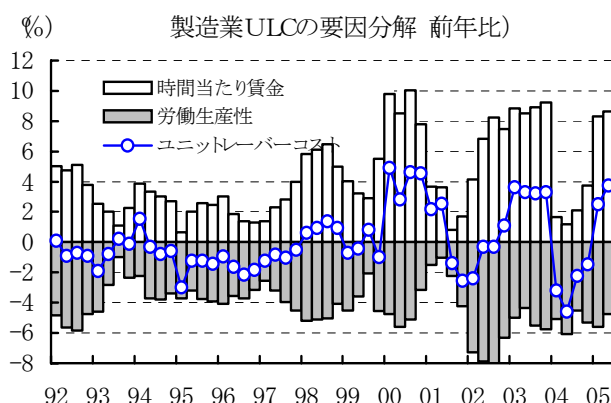
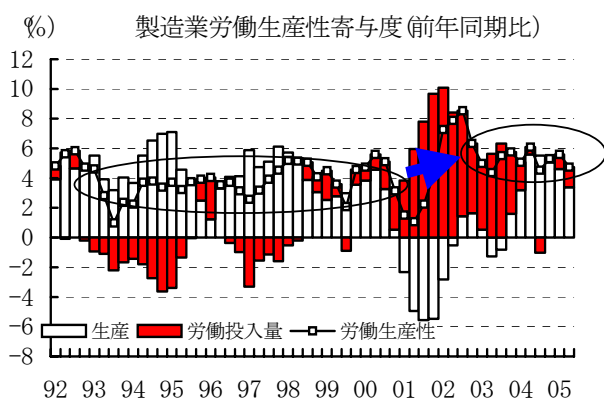
消費財（エネルギー・食料品を除く）では、家庭用電気機器が同▲0.8%、家庭用ガラス製品が同▲0.1%、玩具・ゲームが同▲0.1%と下落が続いた。一方、乗用車が前月比+1.5%（6月同▲1.0%）、宝石・プラチナ・金が同+0.5%、スポーツ用品が同+0.2%、靴が同+0.1%、定期発行誌が同+0.4%と上昇に転じた。加えて、家庭用家具が同+0.2%、処方薬が同+1.3%と加速したことから、消費財（エネルギー・食料品を除く）は同+0.4%（同▲0.1%）とプラスに転じた。

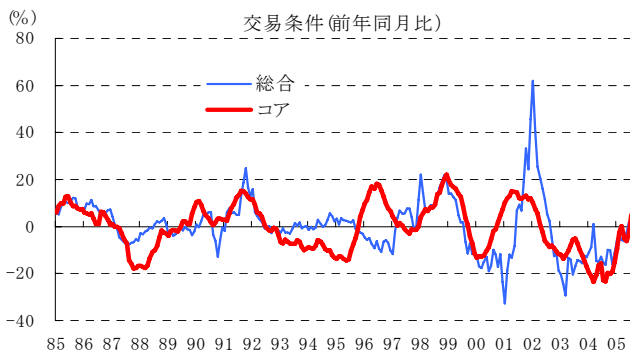
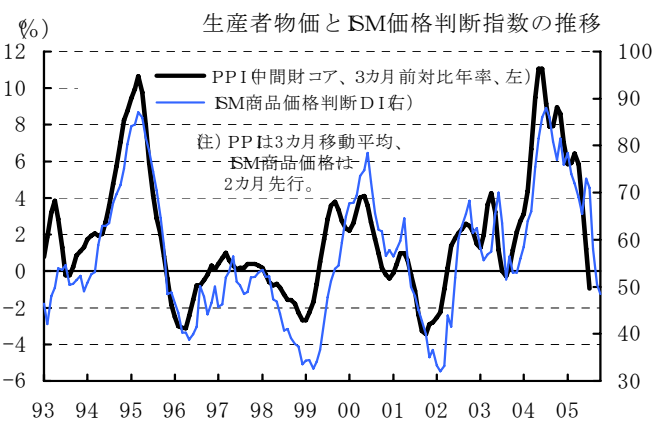
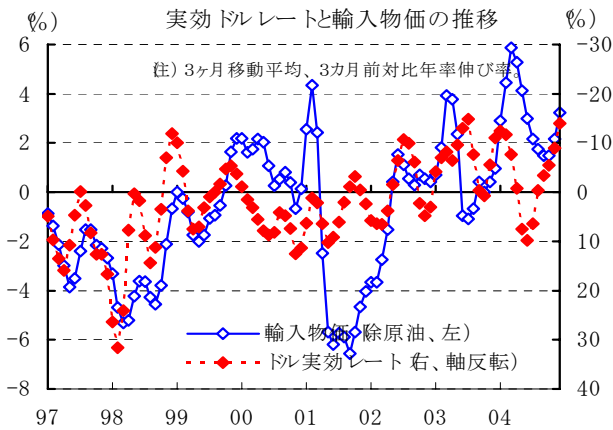
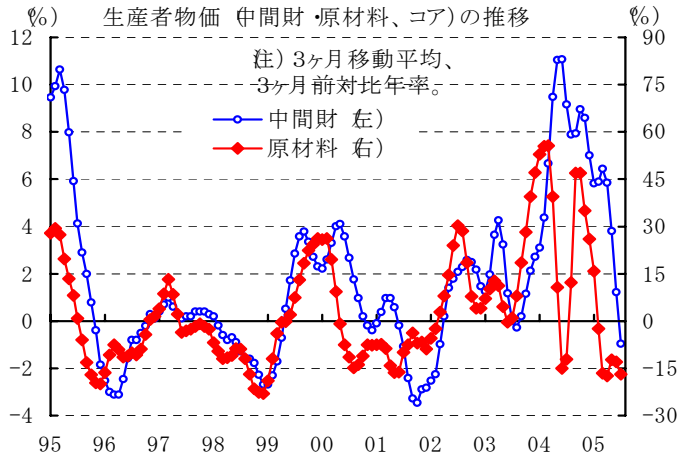
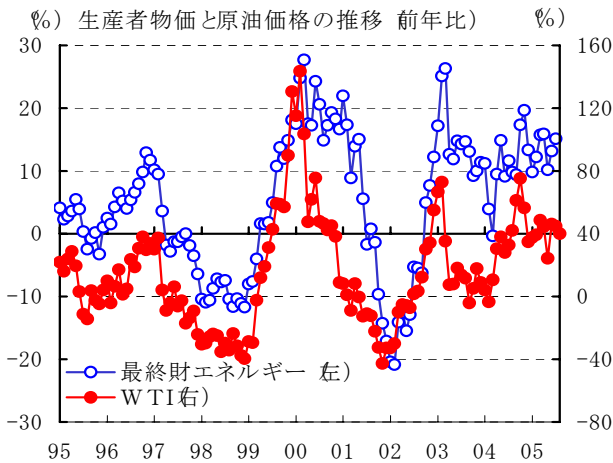
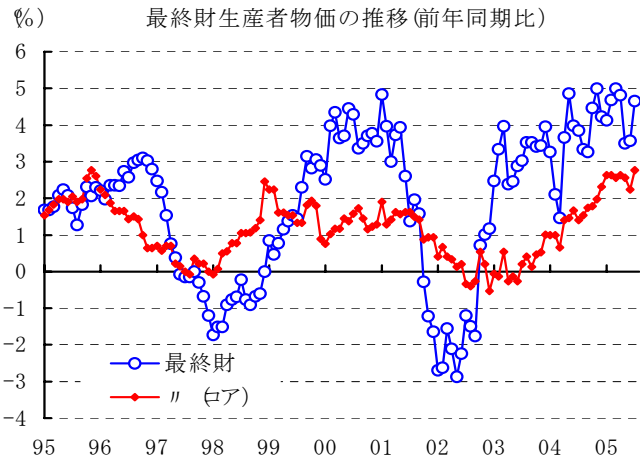
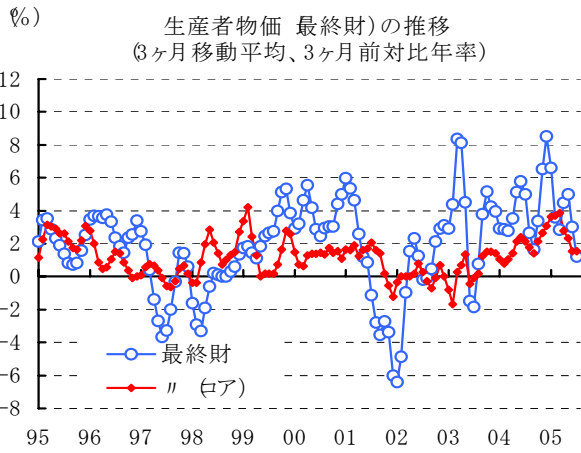
他方、設備投資の堅調が続く資本財では、品質向上や値引きが続くコンピューターは前月比▲2.1%（6月同▲0.8%）と下落幅が拡大した一方、建設機械・機器が同+0.5%（同▲0.4%）、産業材溶接機械が同0.0%（同▲0.9%）、軽トラックが同+1.4%（同▲1.7%）、民間航空機が同+1.0%（同▲0.2%）とプラスに転じた。さらに、大型トラックが+0.9%（同+0.1%）、大型トレーラーが同+0.6%（同+0.1%）と上昇ペースが加速し、全体でも同+0.5%（同▲0.2%）と上昇に転じた。

生産者物価（最終財）コアは前年比で鈍化する見込み

今後に関しては、①川上でのインフレ圧力を示す原材料（コア）が3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率で7月に▲18.3%（6月▲22.8%）と下落が続いていること、②中間財（コア）に2ヵ月程度先行する仕入価格指数（ISM製造業景気指数）が2004年4月をピークに05年7月にかけて低下傾向を辿っていることから、目先インフレ圧力はピーク時から徐々に弱まっているとみられる。

今後、世界的な景気拡大持続に伴う供給不足懸念を背景にエネルギー価格の高止まり、或いは上昇が続く、商品価格も高止まりする可能性がある。このため、原材料価格（コア）も再び上昇に転じると見込まれる。しかし、製造業では①数量効果、②情報化投資やリストラクチャリング等による生産性の向上、③利益率の改善などによってコストの増加をある程度吸収できるとみられ、価格競争が激しいなか生産者物価（最終財）コアは前期比で緩やかな上昇が続こう。さらに、前年比では物価押し上げ圧力が年末にかけて限界的には縮小することから、生産者物価（最終財）コアの上昇ペースは前年比で鈍化する公算が大きい。





本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。